



あなたは“戦争”を知っていますか...？

日本では
戦争中である**1945年8月6日(広島)/8月9日(長崎)**に
原子爆弾が投下されました。

この戦争が終わってからは
日本は戦争のない平和な国になりました。

しかし、世界では現在も戦争が行われています。
皆さんと同じ年の子は
戦争のせいで学校にも通うことが出来ていません。

右の写真は2022年に
日本から遠く離れたウクライナという国で撮られた写真です。

平和な世界をつくるために
私たちが出来ることを考えてほしいと思います。



投下された爆弾と女の子
From: Twitter@GlasnostGone

長崎原爆資料館

長崎原爆資料館を訪れていた小学生数名に

「1番印象に残った内容」

を訪ねると“被爆時計”や原爆の熱線により
“溶けた瓶”や“炭化した米”
“表面が沸騰した瓦”の展示物という回答が
多く返ってきました。

衝撃的な展示物の状態に
私たちが言葉を失いました。

当時の日用品が、被害の様子を
現代の私たちに教えてくれます。

爆風、熱線、放射線、その後の火災

長崎の街の日常を
原爆は、たった一瞬にして
奪ってしまいました。



✿ 嘉代子桜・親子桜 ✿



原爆投下時、林嘉代子さんは、
爆心地から500メートルほどしか
はなれていない城山小学校で
学徒報国隊員の一人として働いており、他
の多くの女学生とともに亡くなりました。

嘉代子さんの母親の津恵さん
は、娘と一緒に亡くなった女
学生の慰霊と平和への願いを
込めて小学校に
桜の苗木を植えました。
今は、大木となり、毎春桜の
花を咲かせています。



📖 おすすめの本 📖



学校の図書館や
北九州市立図書館
で探して
読んでみてね！

山川剛さんによる被爆体験講和



当事者じゃなくても
沢山学ぶことで
被爆体験を
伝えていくことは
できる！

★私たちがこれからすべきこと

- ① 事実を事実のまま残す
- ② 残せるものはとにかく残す

★語り伝える時に大切にすること

真実+自分の想い



👉 原子爆弾の中の模型
中心にあるスプーン一杯分の
プルトニウムが被害をもたらした



ピースボランティアさんと「風船配り」



平和公園にて、市民大行進後のバルーンリリースにて使用する風船を配布するボランティア活動を体験させていただきました。

風船配布前には長崎のピースボランティアの方々と交流し、同世代の仲間が考える「平和への想い」などの意識に触れることができました。

みなさんも積極的に「平和への想い」に触れ、「平和の尊さ」を大切にすることや**次世代に語り継いでいく**ことへの意識を強く持っていただきたいです。



ピースボランティアさんと「山王神社」へ



「1本柱鳥居」と「被爆クスノキ」

1本柱鳥居は、爆風によって本来の場所からズレていたり熱線に当たった部分(ツルツル)と当たっていない部分(ザラザラ)で触った感触が異なるなどの被害状況を実際に体験しました。

被爆クスノキは樹齢5~600年の大きなクスノキです。被災してから枯れ木のようになったにも関わらず、2年程度の後なんと新芽を出したのです。とても強い生命力を感じられます。

被爆クスノキの、風を受けると聞こえる葉音は「**残したい日本の音風景百選**」にも選ばれています。



「市民大行進」と「バルーンリリース」



平和公園から爆心地公園まで参加者全員が「平和の尊さ」を訴えるための行進をしました。

右上の写真は、原爆で犠牲になられた方を追悼(ついで)するために黙祷(もくとう)をささげている様子。右下の写真は平和公園にて配布した風船を空へ放ち、バルーンリリースを行った様子の写真です。

戦争の悲惨さを学ぶこと
平和の尊さを実感すること

平和学習では、**この2点を合わせて学習**することで、より一層私たちの現在を大切にしようと思えるのだと思います。



さいごに：活動を経ての学生の想い

<岩切>

花火が打ち上がる音が「焼夷弾」に似ていることから、花火大会へ行くことが出来なかった話などを知り、今の日本が平和だからこそ「楽しい」と感じられる日々があるのだということを痛感した2日間でした。尊い平和を守るためにも、戦争に対して正しく関心をもち、意識を大切にしたいと感じました。



<甲斐>

私たちは、戦争の恐ろしさや平和の大切さを後世に繋げていく立場にあることを実感しました。毎日笑顔で過ごせることに感謝し、今回の活動を家族や友人、たくさんの方々に伝えていきたいと思いました。



<高井>

戦争について学んだ時、情報が多くて、あまりわからないなと思ったら、大人になって改めて平和について考えてほしいと思います。私も小学生の頃は訳も分からずに平和学習を行っていました。今は戦争で誰もしあわせにはならない、ということが分かっていれば十分だと思います。



<坂口>

私たちは、原爆の悲惨さや被爆体験を語り継いでいかなければなりません。二度と戦争を繰り返さないために、私たちの未来のために、戦争や平和について学び、家族や友達と戦争について考える時間を設け、活動体験を伝えて行こうと思いました。

